

DXで大切なのは… **タイミングを逃さない!** **ITの現状を正確に知る!**

今すぐやりましたら ITの精密検査

～デジタルトランスフォーメーション(DX)に向けたITシステムの検査～
ちょうどよくまとめられた検査項目で、**健康状態が具体的に**わかります



こんな症状ないですか？

DX対応状況 簡単チェックシート

- データを、リアルタイム等使いたい形で使えるITシステムとなっていない。
- 環境変化に迅速に対応し、求められるデリバリースピードに対応できるITシステムとなっていない。
- IT資産の現状について、「全体像を把握し、分析・評価」できていない。
- 価値創出への貢献の少ないもの、利用されていないものについて、廃棄できていない。
- 「データやデジタル技術を活用し、変化に迅速に対応すべき領域を精査の上特定し、それに適したシステム環境を構築」できていない。
- 非競争領域について、「標準パッケージや業種ごとの共通プラットフォームを利用し、カスタマイズをやめて標準化したシステムに業務を合わせるなど、トップダウンで機能圧縮」できていない。
- ITシステムの刷新に向けたロードマップが策定できていない。

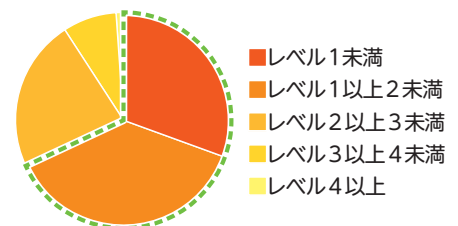
出典:経済産業省 「DX推進指標とそのガイダンス」のIT部分をもとに作成

これらに該当する場合は、**精密検査**が必要です

DXに向けた企業の対応状況

企業のDXの対応状況は、「**全社戦略が明確ではなく散発的な実施にとどまっている**レベル2未満の企業が7割程度存在」しており、経営視点指標、IT視点指標のどちらにも共通しています。

成熟度レベルと企業数の割合



レベル2未満が全体の約7割

出典:「DX推進指標分析レポート(2020年度版)」をもとに作成

DXでどうしたらいいか迷っている
情報システム部門のあなた、
まずITシステムの健康状態を知ることが重要です!



ITシステムの健康状態がわかる プラットフォームデジタル化指標

をおすすめします。

※「DX推進指標」でIT部分に問題があった場合に利用すると効果的です。

プラットフォームデジタル化指標とは？

ITシステムが、DX対応に求められる要件を満たしているかを評価するための、IPAが作成・公開した指標です。

- いろんな視点で評価できます
- 公平・中立で偏りがありません
- 範囲を絞って適用できます

- ✓ DXについての詳細な評価により、ITシステムの問題点を見える化します。
 - ✓ 対策が必要な箇所と、優先順位決定のための情報を明確にします。
- 現状を正しく知ること、適切な優先順位に従った対策の実施を促します。

● 例えば、こんなことがわかります ●

- 最新データをいつでも利用できるか。 46項目
- 変化に素早く対応できるか。

データ活用性	利用品質
アジリティ(機敏さ)	開発品質
スピード	維持・保守のしやすさなど

- データ分析の仕組みは適切か。 12項目
- AI活用の仕組みはあるか。

ITシステム間の独立性	データ活用の仕組み
運用の標準化	プロジェクトマネジメント
セキュリティ、プライバシー	デジタル人材など

- ITシステムの特徴をわかっているか。 13項目
- リソース状況は適切か。

事業特性	保有リソース
影響度	IT開発の状況
システム特性	

- 適切なITシステムに注力しているか。 5項目
- 財務面の変化への対応力はどうか。

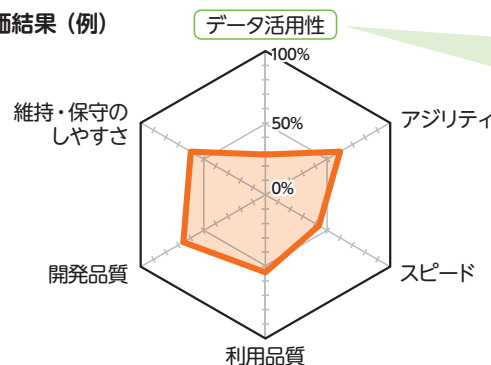
財務

事業上の重要性、顧客影響度などから、**優先順位**も決められます！

評価結果から、問題点が一目でわかります。



評価結果(例)



「データ活用性」は得点率が低いことから、何らかの対策が必要です。

プラットフォームデジタル化指標の説明資料、利用ガイドなど詳しくは、WEBサイトで。
www.ipa.go.jp/digital/dx/pfd-index.html



本件に関するお問い合わせ先